

# 令和4年度 Faculty Development

## 「教育実践の共有～BSL編～」 開催報告

福島医大教員向けFDを以下の通り行いました。

### 1. 目的：

- ・BSLの意義を再度認識する
- ・本学ではどのようなBSLが行われているかを知る
- ・BSLを工夫するにはどのような方法があるのかを知る

2. 日時と場所：令和4年12月21日（火）17:00～18:00（Zoom開催）

3. タイムスケジュール：（敬称略）

開始時間	所要時間	形式	講師・進行	内容
16:45				受付開始
17:00	5		大谷 晃司	開会の挨拶 講師・ファシリテーター紹介
17:05	15	講演		教育実践の共有① 整形外科 草野 敬悟先生 (医療人育成支援センター 及川沙耶佳)
17:20	10	全体 意見 交換	安田 恵	
17:30	15	講演		教育実践の共有② 地域・家庭医療学講座 中村 光輝先生
17:45	10	全体 意見 交換	安田 恵	
17:55	5		亀岡 弥生	全体 Q&A、総括
18:00				終了

### 4. 当日の様子

講演では、整形外科と地域・家庭医療学講座より、BSLの内容や工夫されている点、難しさを感じる点などについてご紹介いただきました。


整形外科では学生に手術前にどのような手術かを説明したり、術中に解剖などについて説明をされているとのことでした。しかし感染リスクの高い手術を扱うという科の特徴もあり、学生に手洗いをさせて入らせることが躊躇されること、現場の医師の余裕がないときは学生に解説をすることが難しいことなどについて共有いただきました。しかしながら今後は学生へのアンケートなども行い、実習を充実させていかれるとのことでした。

## ②手術見学

- ・手術前にどのような手術かを説明
- ・術中も助手などが解剖や現在行っていることを説明

〈難しい点〉

- ・極力手洗いをさせたいがインプラント手術が多く感染リスクあるため躊躇
- ・執刀医、助手ともに余裕がない場合解説できない



また、整形外科で行っているシミュレーション実習について、その概要や進め方、工夫している点について、サポートに入っている医療人教員より説明をさせていただきました。整形の1週目で学んだ内容をアウトプットさせるようなシナリオにしていることや、ロールプレイなどを織り交ぜた実践的な内容にすることで「わからないことをわからないまま持ち帰らせない」実習としている点などについてお話をさせていただきました。

Case1  
ロールプレイ

研修から右手の手洗いがし忘れてきました。

初診対応をした別の医師から何も説明がなかったため、病院に不信感を抱いている



医学生②  
整形外科研修医役


医学生①  
患者役

指導者  
患者の母親役

地域・家庭医療学講座では学生に予診を取らせて、指導医から振り返りを行う、という教育実践について学習理論なども交えながらご紹介いただきました。忙しい外来の中でどのように学生へ指導を行うか、という点は非常に難しいところではありますが、外来全体の込み具合なども把握しつつ、コメディカルの協力も仰ぎながら、タイムマネジメントをしっかりと行うことで、患者さんにも迷惑をかけない学生参加型外来実習が可能となっている、とのことでした。

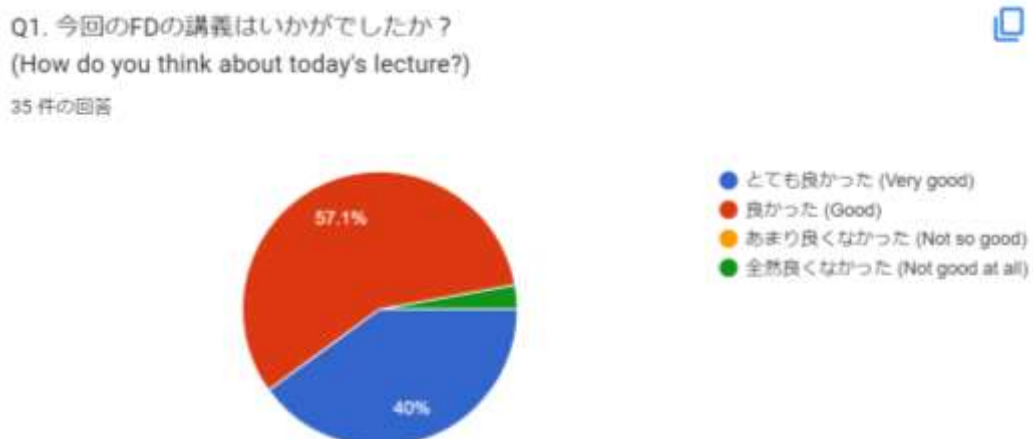
### TAKE HOME MESSAGE

- ・どう学んでもらっているか？
  - 外来予診実習: 患者と話し、自分の頭で考える経験
  - 振り返り: 経験の概念化、一般化をサポート
- ・どんな工夫をしているか&どんな点が難しいか？
  - 学生が診療の一部を担うシステムの構築
  - 学生が負担するコスト(宿泊費、交通費、機会費用)
- ・学生の反響はどうか？
  - 学修目標が学べているか: 評価項目、振り返りシート
  - もっと学びたくなったか: アドバンスト、専攻医の人数



## 5. 参加者アンケートより

当日は 57 名の方にご参加いただき、35 名の方から事後アンケートの提出がありました。(回収率 61.4%)。



参加者からのコメントの一部を抜粋します。

- 普段わからない他科の実習の方法を具体的に知ることができた。
- 学生につきっきりで指導するのは、なかなか困難です。勉強になりました。
- 他科の工夫を知ることができて参考になりました。
- 他科の取り組みを知ることができました。困難な点の対応について議論ができると尚よかったです
- 私は基礎教員であり医師でもないため、臨床に関する教育・現場について全くの未経験なのですが、臨床実習がどのように行われているのかを拝聴できる非常に貴重な機会となりました。
- さらに診療参加型にするためにどうしたらいいのか、各科で考えていく必要があると思います。
- 最後にあったように資料人育成・支援センターに、必要があれば相談する体制は励みになる。
- 自身の講座の BSL への取り組みがどのレベルにあるのかある程度客観的に知りたいので、医療人育成センターによる個別にヒアリングやアドバイスがあると良いと思いました。
- 新しいことを始めるとともに、今やっている内容をどう改善させるかという 2 つの視点が必要だと思います。結局は、仕組みと言うよりは、人が重要であるということには変わりないですが。
- 今回のようなパターンで各診療科がどのような実習を行っているのかを紹介したり、ただ紹介するだけでなく各科が集結した中で紹介をすることでブラッシュアップなどができると良いのではないかと思います。基礎に関しても臨床に関しても、他講座ではどのような講義・実習が行われているのかを把握できる機会は少なく、それらが末端の人間まで共有されれば水平・垂直両方向での統合教育に関して工夫もできたり、既に学生が何を知っているかを把握して講義・演習ができるかと思います。

アンケートからは、教員の皆さんが他診療科で行われている BSL の内容を知る機会はあまりないことがわかりました。BSL に関して、ある診療科で難しいと感じている点は他の科でも共通の課題であることが多く、全体の診療科が集まって課題を共有することは、貴重な機会になると思いました。また、今回は教育実践の紹介と質疑応答、という形式を取りましたが、今後は一つ一つの実践に対して様々な角度からもう少し踏み込んだ議論ができるような FD が必要であると感じました。医療人育成支援センターでは今後も様々な FD を企画していきたいと思っています。